

ポール・クラフを偲んで：

ある偉大なアメリカ人芸術家についての考察



玲亜：（そばのパソコン画面に目を向けながら、マキアートをすすって）ポール・クラフの芸術で私が魅了されるのは、精神的なものと官能的なものの境界を消し去ってしまうところだ。彼のキャンバスは生きているように感じられる。何十年も前に描かれた作品さえ、そうなのだから。

ミン：（ゆっくりとうなずきながら）彼にお会いすることができなかったのは残念だ。だが、彼の作品には自然界への深い愛、そして日常のものごとの神聖さを感じ取る心が明らかに表れている。

ティン：（前のめりになり、サムにいたずらっぽくウインクして）正直に言えば、彼はノーマン・ロックウェルより優れた芸術家だったと思う。便利なレッテル貼りでは、彼の芸術をまともに説明することなんてできない。残念ながら、彼はほとんど見過ごされている。名声って、なんて気まぐれなんだろう！

玲亜：（背もたれにもたれ、言葉を慎重に選びながら）私にとってノーマン・ロックウェルは、芸術家というよりは「グラフィック民族誌家」に近い存在だ。彼のビジュアル作品は、20世紀アメリカ生活の神話と現実を切り取った貴重なスナップショットだった。しかし、絵画技術という点では、ポール・クラフのほうが確かに優れていた。ただし、マーケティングの才覚では、ノーマン・ロックウェルが群を抜いていたと言える。

- T Newfields (和訳:吉田典子)

開始: 2020年 横浜市 完成: 2025年 静岡市